



紹介元 あたほ環境機構(株) 古田周

会社名	(株)磐城無線研究所	連絡先	総務部 坂本 直美
KES.NO.	KES2-HI-0017		住所:〒 979-0142
登録範囲	ハイブリットIC等の製造・販売		勿来工場 福島県いわき市勿来町酒井酒井原27-1

あたほのロゴも作ってみました

あたほ活動ロゴ



環境情報をネットで調べた内容をアレンジして工場内の皆さんに伝えているんだ!

## 東北の復興へのみちのり

東日本大震災から早くも1年経過しました。少しずつ良い方向へ向かっているのか、いないのか。いろいろなご事情を持たれているかと思えます。現状として、原発事故が本当の終息を迎えるまではまだまだ長い道のりを辿らなければなりません。しかし、これは福島だけではなく、宮城・岩手その他の被災県も色々な問題を抱えています。大量のがれきが復興の妨げになっているのです。

### 片付かないがれき

岩手・宮城両県のがれきの量は現在2,000万トン発生し、平成24年2月21日時点で最終処理されたのは全体の約5% (環境省発表)しか進んでいない。

### がれきの分別

がれきの最終処分量を減らす為に細かく分別される。冷蔵庫・エアコンなどのリサイクル法の対商品、コンクリート・アスファルトなどのリサイクルできるがれき、その他。だが、瓦葺の大多数は建材などの木材で、これらの木材は焼却することが基本だ。

### 受け入れを快諾。その理由

宮城県の隣県である山形県では早々に受け入れを申し出をした。また、県内の民間でバイオマス発電をする企業が被災木を燃料を使用したいと市への申し出をしたという。勿論、住民の反対はあった。しかし企業と市は何度も住民に対し何度も説明会を開催し、線量の測定(ダンプの積み下ろし時に企業が測定を実施したを正確に測り、細かく公表した。また、山形県としても放射能の線量基準を国が定める基準の1/2とする県独自の規定を作成。又、東京都が受け入れを決めた報道がされたことにより市民から納得を得た上でバイオマス発電の燃料として4,700tを含め、約5万tを処分した。又、東京都や静岡県でも放射能の測定値を公開(即時時は住民も参加)し、地道にデータを集める住民への説得をしているが、なかなか進まない。放射能汚染の懸念により反対する住民が多数いるのも事実。

### がれきといっても…

左記で述べている通りがれきと言っても、ゴミではないものも含まれている。それは、アルバムやランドセルや位牌といった普段の生活で普通に使っていた物。もしかしたらぐちゃぐちゃになってしまった紙切れ一枚でさえ、元の持ち主にしてみたら思い出がたくさん詰まったものかもしれない。そういう思い出の品をきれいに持ち主に返却するボランティアがある。また、廃材を利用したキーホルダーを作る動きもあるという。それは、被災にあったということ風化させないためのものさうだ。

正直、実際に被災に遭うまでは阪神淡路の震災や中越の震災等を大敵だと思つて、どこか他人事のように考えていた。今回の震災も被災に遭っていない人たちはそう感じているかもしれない。私たちは運悪く災害を経験してしまった。しかし今は避難しながらもあの当時から比べれば通常の生活を送っているせいか、避難中に感じた色々なありがたみがいま少しづつ薄れつつあるような気がする。もう一度あの状況の中で感じた感謝すべきことを思い出してみよう。また、被災に遭った大変なのは自分たちだけではない。そのことを心の隅の隅にでも思い描いてほしいと思う。東北の、いや、今回の被災に限らず大雨などの災害に遭った他の県の日でも早い復興を祈ります。

### なぜ片付かないのか

巨大津波は街並みさえ、見違え限りのがれきの山ができた。がれきを除去は被災直後から始められたが、積み上げる場所が土地狭く、場所によっては小学校の校庭までもがれきの集積所となっている。しかし、まだまだ片付かない被災地以外の県での処分を要請しているが、がれきに付着している放射能の飛散を懸念する住民が多く現状では難しいところ。(環境省のデータによると宮城・岩手への原発事故の影響は、首都圏とほぼ変わらないらしいが…)。又、その他、用地不足ばかりが原因ではないようだ。がれきのなかには、アルバムや思い出の品が多く、不要な者として処分せず住民に返そうという奨励があり、本格的な撤去までに時間がかかったというところもある。しかしその奨励も地元住民の気持ちになればあたりまえと言える。その他、建材のほかにも流出してしまった危険物(油や刃物、化学物質等)が混ざっている状態で慎重に作業をせざるを得なかったのだ。

年次エコガジソン第10号

発行	2012/6/1
承認	FKS-11-04-019-1
承認	発行

うか? 物質を中へ、危なく専門家じゃ

年次エコガジソン第5号

発行	2012/1/10
承認	FKS-11-04-009-1
承認	発行

だけではまず。毛判等。に基づき報に広6万トン、2千万人

が、3% だことも言人的被です。ず為にどんぐるべ



どんぐりの木は多くの生き物の命をはぐくみます。



どんぐりの仲間 コナラ、ブナ、アヤマキ、クヌギ等



# 廃ブラウン管が被災地の味方になる？

FKS-12-04-004-1
2012/10/2
承認 発行
環境委員会 2012.10.02 発行
上巻 2012.10.02 発行
下巻 2012.10.02 発行
2012年度EM2号

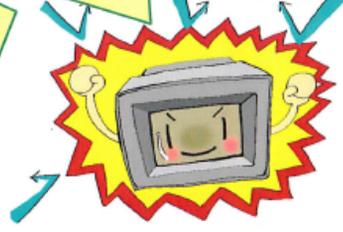
2011年7月に完全にアナログ放送が終了しました。(被災3県は3月で終了)  
それに伴い地上デジタル放送に対応したテレビの買い替えが進み、大量のブラウン管テレビが廃棄されました。  
その廃ブラウン管テレビ(うち、ブラウン管部分)が被災地の抱える問題の強い味方になるのではと、今注目されているのです。

**ブラウン管の特性は？**  
廃棄されるテレビのブラウン管には視聴者を有害な電磁波から守る鉛が10~25%が含まれるガラスが使われています。  
そのガラスが高い放射線(とくにガンマ線)を遮蔽効果を持つことに着目し、実験をしたところ、放射線を99%遮蔽できることがわかった。

**なぜ廃ブラウン管なのか。**  
遮蔽材料の鉛は今日本での資源数が少なく、中国に依存せざるを得ないのですが、需要の急騰等により品薄感があるうえに、価格も高騰しているため厳しい現状です。  
そこで、廃棄されたブラウン管が都市鉱山として注目を浴びているのです。

**廃棄されたブラウン管はどれぐらい？**  
電子情報産業技術協会の見立てによると、1,550万台のブラウン管テレビがリサイクル対象で、ブラウン管で20万トン、鉛分だけで2万トン近くが含まれているとされています。これは国内の鉛需要(27万トン)で鉛バッテリー用途以外の50%超えに相当する量とのこと。

**どのように利用するのか**  
そのままの状態、袋に詰めたり、マット状にして利用しても大きな効果があるそうですが、色々な企業が開発を下記のように進めているようです。  
● コンクリートに混ぜ込んで利用する。  
● ガラス材を特殊な溶液と混ぜ、折り曲げ可能な防水版を作成。コンクリートよりも1割以上軽く、シート状にも加工できるとのこと。



テレビを廃棄(買い替え)する際にリサイクル法に基づいてリサイクルしたテレビが今、また役に立てば何よりではないでしょうか。

# 代替エネルギーの現状とは…？

環境委員会 2012.02.06 発行
承認 発行
上巻 2012.02.06 発行
下巻 2012.02.06 発行

地球温暖化現象が問題視されている昨今、地球にクリーンな代替エネルギーの開発が世界各国の課題となっています。  
日本では地球温暖化現象に加え、原発の事故以降『脱原発』の現実に向けて代替エネルギーの開発を進める動きが見られるようになってきていますが、今現在、実現することはいろいろ問題があるようです。  
今回はその中の一つ『地熱エネルギー』について考えてみましょう。

**日本は火山国**  
地熱発電とは山に降った雨水や雪解け水が地下に浸透し、火山性の熱源により高温に温められた熱水が作られ、その熱水が岩盤等の亀裂中等にたまります。  
そこに井戸を掘りこんで、蒸気・熱水を取り出して発電や暖房などに利用したものをいいます。  
日本は世界有数の火山国で、地熱発電の貯存量は大きく、環境省が昨年4月に発表した調査結果によると、3,300万kwで、活用できれば東京電力の原子力発電の総量(福島第一、二+柏崎刈羽電力)をも超える量の電力をつくることができます。  
しかし、開発が進まない…その事情とは現在の実績は約53万kw。10年以上前の開発から新設はとどまっている状態です。それは、色々な事情があるようです

**住民の反対**  
地熱があるところにはほぼ観光温泉が多く、発電施設と地元が共存できれば良いのだが、『源泉への影響』や『景観を損なう』という理由等から地域住民の反対が多いようです。

**立ちはだかる法律**  
発電所の候補地の多くは『国立公園』に指定されており『既存の発電所を除き、新設はしない』という国立公園に関する法律があるため、新しく作ることは出来ません。

**ハイリスクローリターン？**  
発電に関するコストは自然エネルギーとしては安価で1kwhあたりのコストは10円未満。しかし、初期にかかるコスト、つまり設備を作る費用が大きいわばハイリスク・ローリターンと言われていています。

これらの問題を解決しない限り地熱エネルギーの利用促進ができないということが現実なのです…

